

東彼杵町実践的防災教育総合支援事業

1 事業実施内容

(1) 防災に関する指導方法等の開発・普及のための支援事業

児童生徒が災害時に自らの命を守り抜くために「主体的に行動する態度の育成」のための教育手法を開発・実践する。

(2) 安全・安心な社会づくりに貢献する意識を高めるための支援事業

児童生徒が災害時の支援者となる視点から、「安全・安心な社会づくりに貢献する意識を高める」ための教育手法を開発・普及に努める。

2 実践テーマ

自他の命を守り、生き抜くために、主体的に行動できる児童生徒の育成

3 東彼杵町の概要と災害の特性

東彼杵町は、長崎県のほぼ中央に位置し、東西にやや長い町である。総面積は74.25平方キロメートルで、三方を国見岳、遠目岳、虚空蔵岳を主峰とする山々に囲まれている。町の大半を山林が占め、平野部は少なく棚田が発達している。丘陵性の山地が海岸線に沿って縦走し、谷が深い。東西は大村市、西北は川棚町、東北は佐賀県嬉野町に接していて、南西は大村湾に面している。

本町の災害の特性として、地理的に台風常襲地帯にあり、海岸線の被災や集中豪雨による河川氾濫・池の決壊のための水害をうける度合いが極めて高い。過去にも大災害に見舞われた記録が残されている。

また、近年の全国各地の豪雨や暴風雨、竜巻そして大地震・津波などの教訓により、本町でも河川整備・土砂崩れ対策他、災害に対する対策を講じている。



4 実践校 千綿小学校 彼杵小学校 大楠小学校 音琴小学校 千綿中学校 彼杵中学校

5 実践構想



災害発生時に命を守り、身の安全を確保するためには、日頃から災害の特性を知り、備えをしておかなければならない。人々のつながりも大切である。

本町の防災教育は、左図のように児童生徒を取り巻く地域住民や関係機関の支えのもとに推進している。実践に当たっては、その代表者で組織している「防災教育実践委員会」を中心とし、町内全小・中学校の活動に協力を得ている。今後も、児童生徒が自他の命を尊重し、生きる力をはぐくむために、地域と一体となって防災教育を充実、継続させていきたい。

案内キャラクターは東彼杵町の茶子ちゃん